

## 日本の伝統芸能における身体技法に関する研究 —総合学習「歌舞伎講座」を事例として—

小林ゆい

慶應義塾大学 体育研究所

### はじめに

我が国には多くの伝統芸能が存在するが、それらは比較的限られた人々によって伝承され守られてきた。一般の人々にとって伝統芸能に接する機会は鑑賞会であり、実際に伝統芸能を体験する機会は少なく、それは学校教育の場も同様である。

しかし近年、国際化を目指した教育の中で、まずは自国の文化を知ることが大切という発想から伝統芸能を学校教育の中に取り入れ、児童、生徒が実際に伝統芸能を学習し、演ずることの試みがいくつかの学校で行われるようになってきた。児童、生徒が日本文化を身体を通して体感し、理解することによって自己形成にも深くつながる学習効果が期待出来る。中央教育審議会の答申（平成14年2月 新しい時代における教養教育の在り方について）や文部科学省の新学習指導要領においても、社会とかかわり、体系的な知識や知恵を身につける上で日本文化に関する教育が改めて重要視されており、また、これらの指導が可能となる授業時間として、「総合的な学習の時間」の導入がみられる。

ところが、伝統芸能を学校教育の中に取り入れることには、教材や指導法が確立していないこと、伝統芸能の実践者・教育者の窓口が分かりにくいくことなど、様々な問題が存在する。

そこで本研究では、伝統芸能の中から近年学校で上演される機会がみられる歌舞伎を取り上げ、歌舞伎役者の身体技法について検討し、教材や指導法にもつながる基礎研究とすることを第一の目的とした。第二の目的として、特に全国で始めて本格的な歌舞伎上演を授業カリキュラムの中で行った栃木県立足利南高等学校を事例に取り上げつつ、広く学校教育の中で伝統芸能を取り入れる際の学習効果と諸問題を明らかにすることを目的とした。

### I. 歌舞伎役者の身体技法

#### I-1 研究方法

歌舞伎の演技のキーワードとして「変身」という言葉がある。歌舞伎役者は、様々な年齢、職業、心理的状態、さらに性別をも超えて変身をしてしまう。この変身には、衣装や化粧といった扮装や、せりふまわしの技法などが大きく作用しているが、本研究では、芸談でよく語られる「イキ」という言葉を「呼吸」として捉え、役者の息づかいをスポーツ科学の手法を用いて検討し、変身する身体のメカニズムの一端を実証的に明らかにすることを試みた。具体的には、腹式呼吸が行われていることと、呼吸パターンが動作と一致する対応関係にあると予測をし、検証を行うこととした。

#### I-2 実験内容

1. 測定日、場所 2002年12月4日、慶應義塾大学体育研究所
2. 被験者 二代目中村又蔵：歌舞伎役者歴45年（国立劇場歌舞伎俳優研修生指導者。海外公演、国内外ワークショップ講師、NHK所作指導等多数）69歳
3. 被験者の服装 着物、袴
4. 検証項目と課題

検証①：発声時の呼吸が腹式呼吸であるかどうか

測定項目：歌舞伎における代表的な一場面の演技中の呼吸様式

課題：時代物「車引」より松王丸、世話物「白波五人男」より弁天小僧の代表的な一場面を各2回

検証②：呼吸と動作との対応関係

測定項目：型で行う動作と呼吸様式

課題：6種類の役柄（侍、番頭、直侍、姫、子ども、花魁）と素の動作で「歩く→座る→おじぎをする」（約4m間）一連の動作を各3回

### I-3 測定方法

呼吸様式の測定：吸う、吐く、といった呼吸相とその切り替わりを呼吸曲線に記録した。呼吸曲線は3本記録したが、1本は鼻と口による呼吸を温度センサーであるサーミスタ3点式呼吸ピックアップ（日本ジーイーマルケットメディカルシステム SPR103型）から測定した。2、3本目は、胸部と腹部に体幹の膨らみと縮みを測るラバーストレインゲージ式呼吸ピックアップ（日本ジーイーメディカルシステム 45360型）を取り付け、胸式呼吸と腹式呼吸の様相を測定した。（写真1）いずれも被験者に取り付けた送信機からデータを無線で受信機に飛ばし、そこからパソコンに記録をした。なお得られた呼吸曲線のうち、検証①ではラバーストレインゲージによる曲線を分析対象とし、検証②ではサーミスタによる曲線を対象とした。

動作の測定：被験者の正面、左右斜めから毎秒30コマでVTR撮影を行った。

呼吸曲線と撮影映像との同期：電球の点滅を用いて、パソコンに記録された電圧信号のオンオフと映像上の点滅とで行った。



写真1 実験風景

#### I—4 実験結果

検証①：発声時の呼吸が腹式呼吸であるかどうか

図1に松王丸演技中の胸部と腹部の呼吸曲線を示した。横軸は時間を、曲線の上方向が吸気、下方向が呼気を表わしている。また、写真は示した瞬間の動作を表している。

この2本の曲線のうち、腹部の曲線の方が発声と直接的な対応関係がみられた。つまり胸部と比べて腹部の方が発生時や息の吸い込み時に膨らみ、縮んでいた。そしてそれは弁天小僧時も同様であった。ここから、いわゆる一般的に腹式呼吸とされる様式をもっていることが確かめられた。

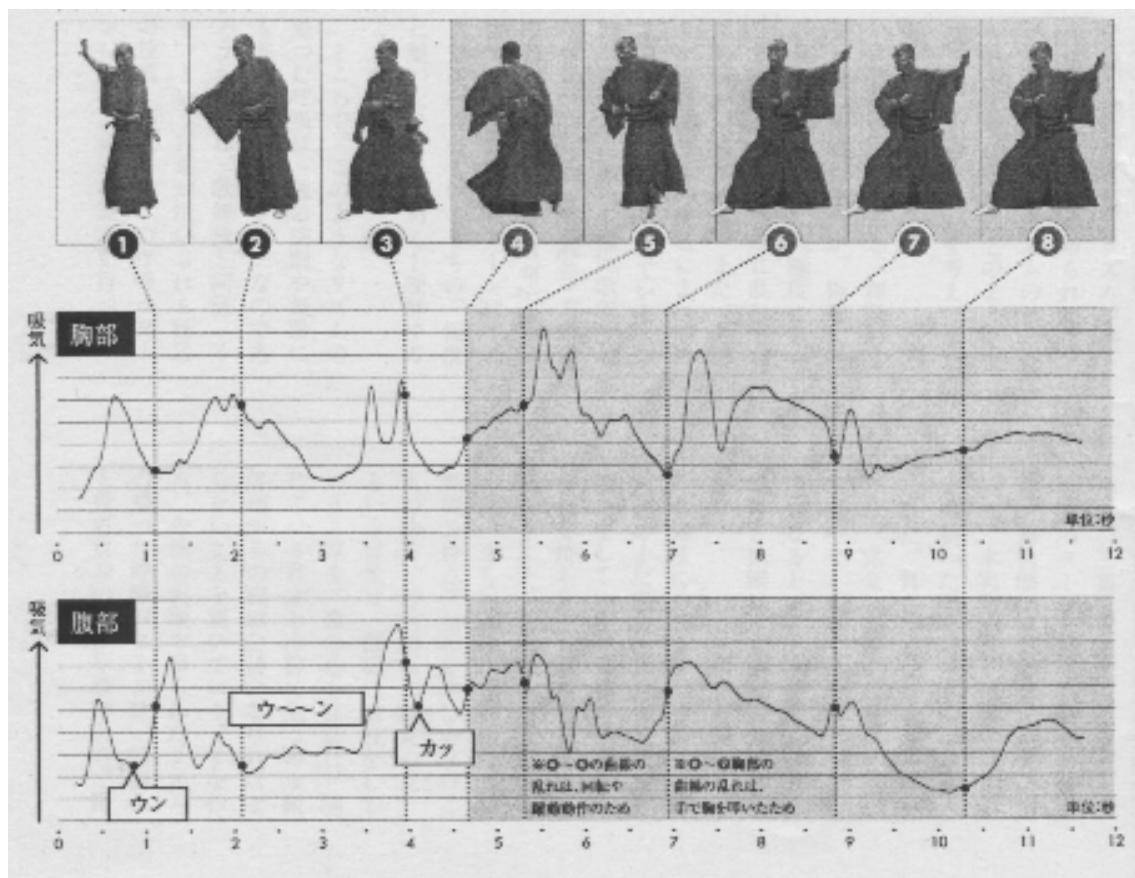


図1 松王丸演技中のせりふ、動作と呼吸曲線（胸部と腹部の膨らみと縮みによる測定）

検証②：呼吸と動作との対応関係

図2に6つの役柄の中から子ども、花魁役での一連の動作と呼吸曲線を示した。この呼吸曲線から、予想していたような呼吸相と動作との一致、例えばおじぎの頭を下げる前に息を吸い、下げながら吐き、上げるときには吸うといったような動作と対応した呼吸パターンがみられないことが分かった。逆に、吸う、吐くといった呼吸周期、すなわち呼吸のリズムが規則的に整っている傾向が強くみられた。つまり歩く→座る→おじぎをするという一連の動作のうち、どの動作を行っていようが、呼吸のリズムは整っていたのだ。そしてこの結果は、歩き方、座り方、おじぎの仕方、さらに動作時間（子ども役 5.3秒～姫役 19.3秒）も異なる6つの役柄であるが、いずれにも共通してみられた。また各3回ずつの試行において再現性が確かめられた。

次に番頭役での2回分の演技中とその前後の呼吸曲線を示した図3をみてほしい。演技が終わると、被験者は次の試行の為に無言で移動をしている。この移動中はいわゆる日常動作時の呼吸を現すが、そこには整ったリズムがみられない。さらに役柄のない、素の動作で行った場合にも、特に整ったリズムはみられなかった。

一方、この呼吸のリズムを呼吸の頻度、すなわちリズム間隔という観点から調べたところ、表1に示すように各役柄間に相違がみられた。リズム間隔は、子ども、姫、花魁、番頭、直侍、侍役の順に長くなつたが、これは一般的な生体において子どもの呼吸が速く、また男性と比べて女性の呼吸が速くなるのと一致する結果であった。

これらのことから、「型」の身体における呼吸パターンには、役柄によってリズム間隔は異なるが、常に整った呼吸のリズムを持ち合わせていると捉えることが出来た。

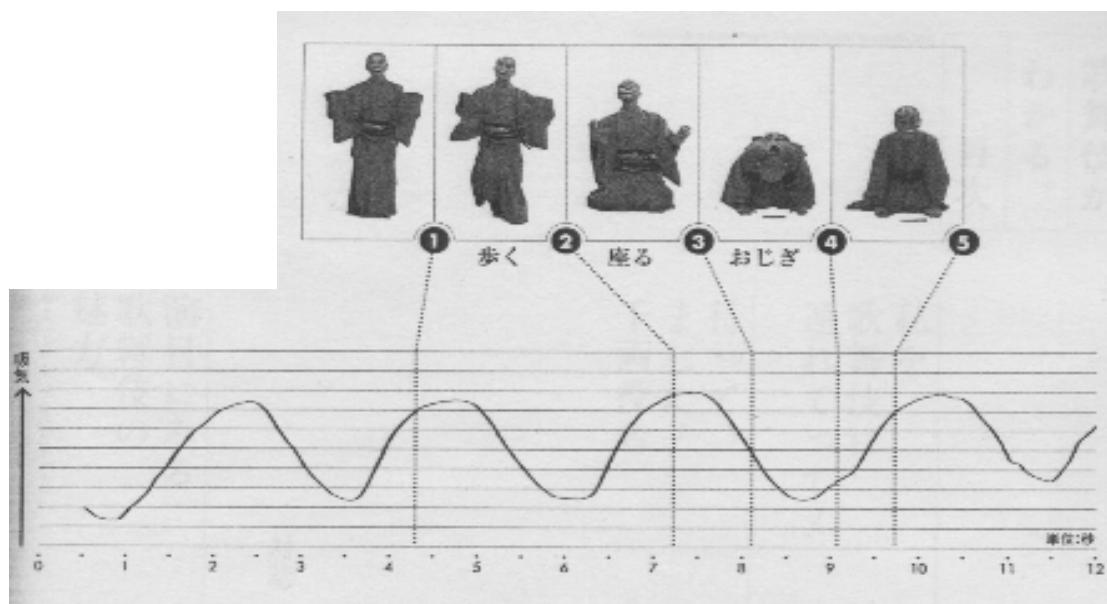


図2-1 子ども役での動作と呼吸曲線（鼻と口に着けた温度センサーによる測定）

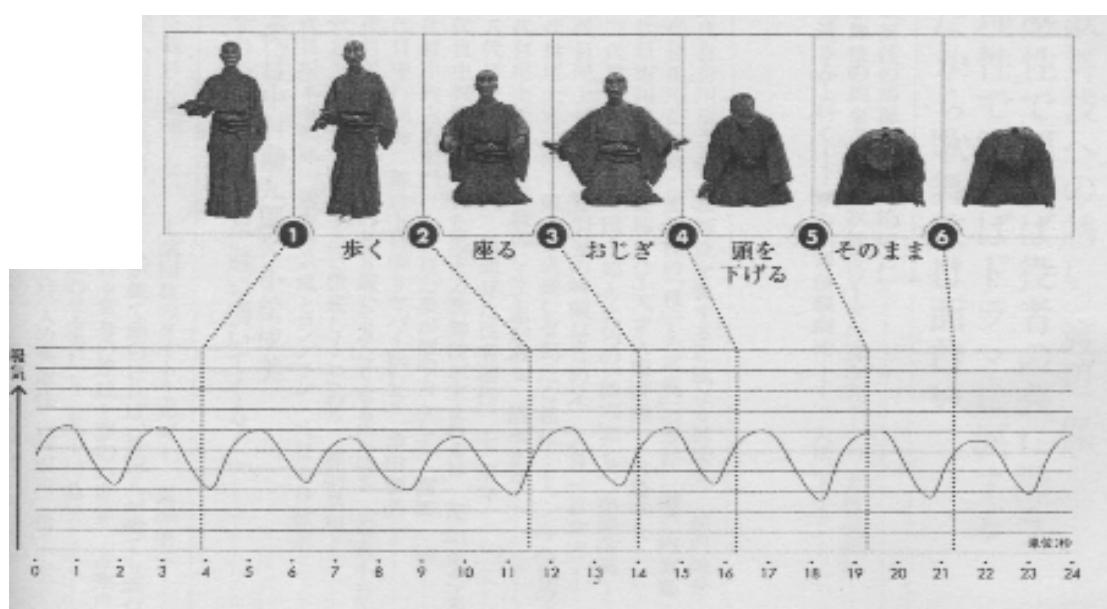


図2-2 花魁役での動作と呼吸曲線（鼻と口に着けた温度センサーによる測定）

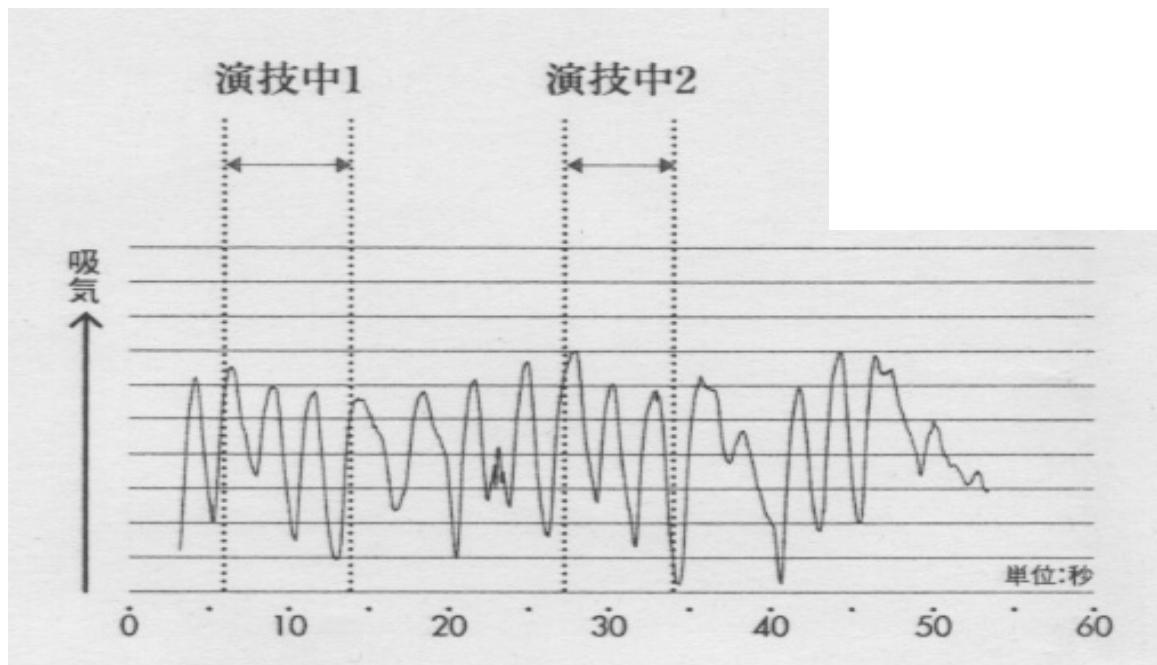


図3 番頭役での演技前後の呼吸曲線（鼻と口に着けた温度センサーによる測定）

表1 役柄別呼吸頻度

	呼吸／分	1呼吸(秒)
安静時	14.7	4.08
素	30.3	1.98
役柄別		
子ども	44.1	1.36
姫	26.3	2.28
花魁	25.3	2.37
番頭	23.3	2.58
侍	22.9	2.62
直侍	22.6	2.65

## I—5 考察

歌舞伎の演技における身体技法の一つとして呼吸に注目をし、腹式呼吸が行われていることと、呼吸パターンが動作と一致する対応関係にあることを予測し、検証を行った。その結果、腹式呼吸が行われていることが確かめられた。一方呼吸パターンと動作との対応関係については、予測に反し、呼吸相と動作とが一致するといった対応関係はみられず、役柄によって速さは異なるが、リズムが整う呼吸パターンが確かめられた。

致するといった対応関係はみられず、役柄によって速さは異なるが、リズムが整う呼吸パターンが確かめられた。

ここでは、このリズムの整った呼吸が、芸の上でのどのような要素を現しているのかを考えてみたい。

三浦雅士によると舞踊のリズムは“極端に速いか、極端に遅いリズム”あるいは“極度に整っているか、または極度に乱れているか”に区分され、またそのリズムは踊り手の呼吸によって作られるものであるとしている。<sup>1)</sup> 本実験で得られた呼吸パターンは、ここで述べられるうち極度に整ったリズムであると理解することが出来よう。ところで、このようなリズムの整った呼吸は、他の演劇や舞踊にも共通する呼吸パターンなのであろうか。筆者は、歌舞伎と同様「イキ」という言葉が用いられ、

呼吸を動作と共にを行うと役者らによって語られる能楽のうち、狂言役者（同家5人）の呼吸パターンについて既に測定を行った。<sup>2)</sup> そこで得られた（基本的な所作、小舞、三番叟、本狂言演技中）呼吸パターンと動作との対応関係は、舞台歴の長い役者になるに従って、本実験結果と同様にリズムの整った呼吸パターンが確かめられた。舞台歴が10年程度の役者では完全に動作と一致していた呼吸パターンが、舞台歴53年紫綬褒章受章者になると、どの課題においても動作とは離れリズムが整っていた。

歌舞伎に限らず、おそらく舞台歴のまだ浅い役者が一生懸命に演技をしているのを拝見するとき、好感を持ちながらもなぜか疲れてしまうことがある。また、なにかバタバタしているように感じて、表現される役の心を楽しめないことがある。世阿弥は「離見の見」という言葉で、役者は、演技をしているときも役の心とは別に演じている自分を冷静に見つめる観客側からの視線を持たなければならないことを解いているが、今回の実験で得られたリズムの整った呼吸パターンは、役の心と役者自身の身体や精神が、距離を保つために必要な「型」の身体が備えた身体技法の一つであると解釈することが出来るのではなかろうか。速くあるいは大きな動作を行っていてもバタバタと感じさせない役者の演技は、整った呼吸パターンと関係が深いのではなかろうか。

## I-6 まとめ

歌舞伎の演技において、演技技法のもっとも大きなキーワードは「変身」である。本研究では、この「変身」を成立させている身体メカニズムを実証的に明らかにすることを目的として、呼吸に注目をした。腹式呼吸が行われていること、呼吸パターンが動作と一致する対応関係にあると予測をし、検証を行った。その結果、腹式呼吸については予測と同様、腹式呼吸の様相が確かめられた。しかし、呼吸パターンが動作と一致する対応関係については、予測に反した結果が得られた。ここで得られた呼吸パターンは、動作の遂行に関わらず常に呼吸のリズムは規則的に整っていた。また、その規則的な呼吸リズムは6つの役柄のいずれにも共通していた。一方リズム間隔については、役柄によって相違がみられ、その相違は役柄に沿った一般的な生体の呼吸間隔と比例する傾向がみられた。

## II. 学校教育の中で伝統芸能を取り入れる際の学習効果と諸問題

### II-1 調査方法

栃木県立足利南高等学校 歌舞伎講座実態調査と学校教員、実演家、研究者・学識経験者への聞き取り調査を行い、それらから学校教育の中で伝統芸能を取り入れる際の期待される学習効果と諸問題についてまとめてることとした。

### II-2 調査対象

#### 1. 栃木県立足利南高等学校 歌舞伎講座実態調査

①歌舞伎講座開設の理由、②授業カリキュラム（上演までのスケジュール）、講師陣、③上演演目、④受講者、⑤上演への金銭的背景、⑥受業生、講師、講座担当教諭の感想を調査項目とした。

#### 2. 学校教員、実演家、研究者・学識経験者への聞き取り調査

次の方々へ聞き取り調査を行った。

#### **学校教員**

高久保勲（栃木県立足利南高等学校 教頭）

成田信子（お茶の水女子大学附属小学校 教諭）  
 松木正子（お茶の水女子大学附属小学校 教諭）  
 秋山 誠（市川市立富美浜小学校 教諭）  
 斎藤知子（さいたま市教育委員会）  
 松下登志男（相模原市立谷口台小学校 校長）  
 阿部太郎（相模原市教育委員会学校教育部 部長）

### 実演家

大倉源次郎（社団法人能楽協会 教育特別委員会【能楽】、小鼓方大蔵流宗家）  
 関根 祥六（観世流観世会顧問【能楽シテ方】）  
 山本東次郎（大蔵流山本家当主【能楽狂言方】）  
 神崎ひで貴（堀派神崎流家元【地唄舞】）  
 花柳 和（花柳流本部役員【日本舞踊】）  
 藤間 多京（藤間流師範【日本舞踊】）  
 志田 房子（志扇雅び会会主【琉球舞踊】）  
 近藤 清（民俗芸能研究会主宰【民俗芸能】）  
 吉田 勘弥（文楽協会技芸員【文楽】）

### 研究者・学識経験者

山崎有一郎（横浜能楽堂館長・能楽評論家）  
 平野 英俊（全国公立文化施設協会・芸術情報プラザアドバイザー）  
 茅原 芳男（特定非営利活動法人邦楽教育振興会・理事長）  
 刈間 文俊（東京大学教授【表象文化論】）  
 小林 寛道（東京大学教授【スポーツ科学】）  
 近藤 洋子（国際基督大学助教授【民俗芸能】）  
 森下はるみ（お茶の水女子大学名誉教授、比較舞踊学会会長【身体動作学】）

## II—3 調査結果

### 1. 足利県立南高等学校 歌舞伎講座実態調査

#### ① 歌舞伎講座開設の理由

足利南高等学校がインドネシアの姉妹校と交流会を行った際に、「インドネシアの高校生が自国の踊りや歌を披露したのに対して、こちらは何の披露も出来なかつた」という経験を元に、日本文化を身につける授業を開設したいと考えた高久保勲教頭の尽力による。

また開設にあたっては、講師予定者らが実行委員会を組織し、準備にあたった。（資料1参照）

#### ② 授業カリキュラム（上演までのスケジュール）、講師陣

授業数は週1回2コマ連続の時間割で、年間全70時間の計画であったが、実際には、学校行事の関係により全63時間となった。この授業時間には、鑑賞会1回、中間上演会1回、上演発表会1回が数に含まれている。ただし授業時間外に、中間上演発表会前に2回、上演発表会前に4回、特別稽古が行われた。（資料2参照）

特筆すべきは、授業カリキュラムの中に、演技に直接関係ある舞踊や音楽などの稽古のみならず、

小道具やかつら、衣装の着方など、一般には習うことの出来ない項目までを広く学ぶ内容を含んでいることである。また、講師陣が全て第一線で活躍中の方々であることも注目に値する。(写真2)



写真2 足利南高等学校「歌舞伎講座」授業風景

### ③上演演目

絵本太功記十段目「尼崎の場」(写真3)

### ④受講者

高校3年生6名、一般市民20名（上演参加者 高校生4名、一般市民9名）

栃木県立足利南高等学校では、多くの授業を選択制としており、歌舞伎講座の授業も「演劇II」(3年生対象、2単位)という選択授業であった。また、2年次に「演劇I」(現代演劇を行う内容)を履修済みであることが条件とされていた。

高校生はいずれも女子であり、一般市民のうち19名も女性であった。一般市民は、足利南高等学校が市民の生涯学習の一環(栃木県民カレッジ、アカデミア栃木と共に講座)として提供する開放講座のうち「演劇II」を受講している方たちであった。



写真3 足利南高等学校「歌舞伎『絵本太功記十段目尼崎の場』上演風景

## ⑤ 上演への金銭的背景

通常授業の講師への謝礼金は、他の授業の非常勤講師代と同様であった。そしてその金額は、本講座の講師各自の専門業界における相場を著しく下回っていた。

しかし本講座開設の目的は、“本格的な歌舞伎を上演させたい”という実行委員の方針もあり、上演は、国立劇場より譲り受けた大道具を始めとして、義太夫(人間国宝を含む)、鳴り物、長唄、衣装、床山、大道具、小道具、顔師、狂言方・附打、舞台監督など全て本格的に行うものであった。(写真3)

これら多くの協力を得るには、文化庁による助成「文化体験プログラム」とタイアップさせることによって可能とならしめていた。「文化体験プログラム」は子どもたちや一般市民を対象として9回(演劇、織物、雅楽など多彩に開催)に渡り、文化庁、足利文化体験プログラム実行委員会の主催で開催された。この9回のうち、「わくわく歌舞伎体験」と「歌舞伎ワークショップと上演」において歌舞伎上演に関わる講師陣が協力を兼ねていた。また、上演発表会は、いずれも文化体験プログラムの一環として上演された。(資料3, 4参照)

## ⑥ 受業生、講師、講座担当教諭の感想

表2に上演に参加した学生4名、一般市民9名全員にアンケート調査(全回収)結果、及び、講師と講座担当教諭への聞き取り調査結果を示した。

表2 足利南高等学校「歌舞伎講座」受講者アンケート結果

学生 (n=4)							
項目	質問	そう 思う	そうでも ない	普通	あんまり 思わな い	全く思 わな い	未記入
授業評価	とても有意義な経験を得たと思う	4					
授業評価	友達や知人にも受講をぜひ勧めたいと思う	3		1			
教育効果	この体験から、日本文化全体に対して興味をもつようになった	4					
教育効果	今後海外の人などに日本文化を説明する自信が出来た	1	2	1			
教育効果	今後も日本文化について勉強(お稽古)してみたいと思う	2		2			
教育効果	今後「歌舞伎」や「日本舞踊」など日本の伝統芸能の公演を積極的にみてみたいと思う	3	1				
授業システム	他の授業と比較して、負担が大きかったと思う	4					
授業システム	歌舞伎公演にあたり、授業数は足りていたと思う	1			3		
		はい	いいえ				
個人的経験	今まで何か伝統芸能や踊りの経験がありましたか		4				

一般市民(n=9)		そう 思う	そうでも ない	普通	あん まり思 わな い	全く思わ ない	未記 入
項目	質問						
授業評価	とても有意義な経験を得たと思う	9					
授業評価	友達や知人にも受講をぜひ勧めたいと思う	6	1	1		1	
教育効果	この体験から、日本文化全体に対して興味をもつようになった	9					
教育効果	今後海外の人などに日本文化を説明する自信が出来た	3	3	2	1		
教育効果	今後も日本文化について勉強(お稽古)してみたいと思う	8		1			
教育効果	今後「歌舞伎」や「日本舞踊」など日本の伝統芸能の公演を積極的にみてみたいと思う	9					
授業システム	他の授業と比較して、負担が大きかったと思う						
授業システム	歌舞伎公演にあたり、授業数は足りていたと思う	1	2		1	4	1
		はい	いいえ	はいの 回答者	日本 舞踊	邦楽	
個人的経験	今まで何か伝統芸能や踊りの経験がありましたか	4	5		3人	3人	

### 学生の記述結果

項目	記述内容
授業評価	・講師に対する感謝(2人)
教育効果	・礼儀正しくなれた ・歌舞伎が好きになった、興味がもてた(2人) ・精神的にも身体的にも成長できた
授業システム	・踊りの講師が何人もいて代わるのが大変だった ・もっと一つの踊りを時間をかけてやりたかった ・練習時間が足りなかった ・小道具をもった練習が前日からだったのがきつかった

### 講座講師より聞き取り調査結果

項目	
授業評価	・上演発表会で期待以上にしっかり出来たので感動した
教育効果	・はじめ反抗的に感じられた学生が、礼儀正しく変化し、もっとも熱心に受講する生徒の一人となった
授業システム	・踊りの講師は1人の方がよいように思われた ・授業時間が少なすぎる

### 講座担当教諭より聞き取り調査結果

項目	
授業評価	<ul style="list-style-type: none"> <li>・講師に対する感謝</li> <li>・上演発表会の観客に大変評判がよく、生徒の自信にもつながったと思う</li> </ul>
教育効果	<ul style="list-style-type: none"> <li>・普段からあいさつが出来るようになった</li> <li>・全く日本文化に興味をもっていなかった生徒が、大学で日本文化科に進学決定した</li> </ul>
授業システム	<ul style="list-style-type: none"> <li>・来年度の踊りの講師は1人することとした</li> <li>・発表会の持ち方を検討する必要がある</li> </ul>

### 2. 学校教員、実演家、研究者・学識経験者への聞き取り調査

学校教育の中で伝統芸能を取り入れる際の期待される学習効果と諸問題に関して、聞き取り調査を行った内容の要点を表3にまとめた。

表3 学校教員、実演家、研究者・学識経験者への「学校教育の中で伝統芸能を取り入れる際の期待される学習効果と諸問題」に関する聞き取り調査結果

#### 学校教員

項目	
期待される学習効果	<ul style="list-style-type: none"> <li>・美しい日本語、美しい動作を小さいうちから身体にしみ込ませてあげたい</li> <li>・(通常触れることが少ないので)日本文化に対する興味や知識を与えてみたい</li> <li>・本物に触れさせる経験を与えてみたい</li> </ul>
諸問題	<ul style="list-style-type: none"> <li>・(実演家)講師の謝礼金の工面が難しい</li> <li>・(実演家)講師をどこで頼んだらよいのか分からない</li> <li>・授業案を組むことが難しい。一から勉強する時間がなかなか持てない</li> <li>・何を準備すればよいのか、分からない。</li> <li>・授業数、予算が削減されている現状の中、新たな内容を加えることは難しい</li> </ul>

#### 実演家

項目	
期待される学習効果	<ul style="list-style-type: none"> <li>・日本文化に対する興味や知識を持つ機会を与えたい</li> <li>・日本文化を身体を通して体感させたい</li> <li>・生涯に渡っての、日本文化に関して興味を持つてもらいたい</li> </ul>
諸問題	<ul style="list-style-type: none"> <li>・実演家が自分の弟子を探すような気持ちでいると良くない</li> <li>・普及ということには、懐疑的である。普及を目指すことで、今まで守られてきた様々な秩序を崩すようなことになる可能性がある</li> <li>・すでに学校普及公演などを行っているが、学校の先生によく理解されていると感じることが少ない</li> <li>・紹介したいという気持ちはあるが、学校の先生と知り合う機会は少ない</li> <li>・1回限り体験させてもなかなか効果は少ないようと思われる。1回の機会であっても、何年か続けて同じ学校へ行くということが必要なのではないか (無償で構わないという意見多數)</li> </ul>

## 研究者・学識経験者

### 項目

期待される学習効果	<ul style="list-style-type: none"> <li>・日本文化に対する興味や知識を与えることで、国際的な感覚から日本を捉えることができるようになる</li> <li>・日本文化を身体を通して体感させることに大いに意義がある</li> <li>・伝統芸能の観客として育ってゆく可能性がある</li> </ul>
諸問題	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学校の先生に伝統芸能について学ぼうとする意識が低いように思う</li> <li>・実演家への謝礼金が少な過ぎる、あるいはボランティアというのは長い目でみるとよくないことである</li> <li>・実演家がそれぞれ自分の立場や思想をもっているので、それらを学校の先生に理解してもらう必要がある</li> <li>・適当な授業モデルを各ジャンルごとに作成する必要がある</li> <li>・各ジャンル別に学習できる内容が異なるが、その整理が必要である</li> </ul>

### II-4まとめ

学校教育の中で伝統芸能を取り入れる際の学習効果と諸問題について、全国で始めて本格的な歌舞伎上演を行った栃木県立足利南高等学校の実態調査と、広く学校教員、実演家、研究者・学識経験者への聞き取り調査を行い、検討した。足利南高等学校のアンケート結果により、日本文化に親しみと興味を持つ、生涯にわたって関心をもつようになる、等の学習効果が得られる可能性が確かめられた。しかし、実際に学校が授業を開設する場合には、第一に金銭的な問題、第二に実演家の窓口が見つけにくい問題、第三に授業カリキュラムを立てにくい問題が存在することが分かった。一方、実演家の間には全体として協力をおしまないという風潮が感じられた。研究者・学識経験者の間には、全体として授業カリキュラムの整備が必要と感じられている風潮であった。今後は、複数の伝統芸能を束ねて学校側の窓口となり、金額、時間、内容が整理された授業案（授業サンプル）を作成する、さらに金銭的問題を解決する手伝いを行うような総合的な機関が設立される必要があるのではないかと考えられる。

### 謝辞

本測定においてご協力を頂きました慶應義塾大学体育研究所佐々木玲子教授、および船戸川華子さんに感謝の意を表します。

### 引用文献

- 1) 三浦雅士：舞踊の身体のための素描. 歌舞伎の身体論 岩波講座 歌舞伎・文楽第5巻 岩波書店 (1998) p. 232
- 2) 小林ゆい、森下はるみ：狂言における基本的動作と呼吸パターンの関係 —大蔵流山本家を事例として—. 体育学研究45巻1号 (2000) pp. 77-88

資料1

上毛トリニティアート・アシカガアートプロジェクト 協賛者登録申請書		
上毛トリニティアート・アシカガアートプロジェクト		
登録登録年月日 平成16年1月1日		
登録登録者登録番号 052-0001-1234		
氏名	協賛区分	協賛額
1 石川 利宏	日本大学名誉教授	100万円
2 田嶋ひで吉	新潟県立美術館 創設者・新潟市立美術館監修官	100万円
3 早川 美智	企画展文化振興会 文化振興プロジェクト	200万円
4 鈴木 信義	日舞世界・奈良舞文化・伝統文化振興会	100万円
5 神田 久美子	日舞文化振興会 奈良支部会員	100万円
6 中山栄治	文化生活文化振興会	100万円
7 清水一朗	歌舞伎研究家	
8 藤井 啓輔	歌舞伎俳優二段目座長・金丸大丞長孫	
9 向内清美郎	作曲家	
10 向内 春子	歌舞伎女優春子	
11 大沢 信次	人間力クリエイタ	
12 西川 光彦	音楽監督	
13 幸福田秋吉	喜劇俳優	
14 和歌山三郎	歌舞「風流道全・さくら」アーティスト	
15 関根 寿貴	歌舞伎研究家	
16 清川久美子	歌舞伎女優清川久美子・歌舞伎俳優以嶽清也	100万円
協賛法人 番号登録会員登録		
17 社説法人 日本経済労合し本所会館	西川 光彦	日本経済労合会議事處
18 協賛法人 佐野歌舞伎公演会		
19 幸作清	足利歌舞伎公演会	052-0001-1234
	日本歌舞伎研究会	052-0001-1234

資料3-1

**ASHIKAGA ART PROJECT 2002**  
**子どもの文化体験プログラム**

（くわいく影響受付課（第1部）10：00～11：30）

第1部 戦国時代の武骨  
 1) 武士の刀・オーディオドレン（10分）  
 三枚表紙面にて刀を扱う大先生、審査官による歌詞を交えての刀の手本と刀の見方。  
 演奏：辰巳正樹　美男：竹本豊雄  
 司会：向内春美子

（15分）

2) 武道の実感（10分）  
 おなじて、稽古の人物が他の稽古を左様のとおり、戦場格闘中の動作を複数を複数して披露する。  
 演奏：花房英吉　辰巳正樹　美男：竹本豊雄　司会：向内春美子

（15分）

3) 武器の世界、衣装「牛若丸」（10分）  
 他役、東洋とのものらしい樂器での七絃琴、太鼓を、他の曲たちと披露します。  
 演奏：花房英吉　美男：辰巳正樹　司会：向内春美子

（10分）

第2部 武道体験会、「牛若丸」（10分）  
 皆大先生直面の体験を試みて、各役を體験劇「牛若丸」上演。  
 武道体験の時のものでの見解、体験して、三通り持たれのアフターコメント大先生と複数の質問とともに、即ち感心致す。

・司会：辰巳正樹　美男：竹内春美子  
 大先生：竹本豊雄　三火猪：辰巳正樹　司会：辰巳春美子  
 司会：向内春美子　司会：辰巳正樹

資料3-2

**ASHIKAGA ART PROJECT 2002**  
**子どもの文化体験プログラム**

（くわいく影響受付課（第2部）15：00～17：00）

『歌舞伎の衣装』 竹内 春子（衣装プランナー）  
 教習店の導の一つに、その要領込み表がござります。  
 今図は「牛若丸」（五幕物）で使った牛若丸や牛若の衣装を中々に、  
 衣装の特徴等に着目してご説明します。

『歌舞伎の小道具』 竹内真次郎（竹内小道具社長）  
 ① 歌舞伎の小道具とは  
 ② 小道具と木道具との違い  
 ③ 小道具の歴史  
 ④ 电子产品について  
 ⑤ 金具類  
 ⑥ 小道具的構

『歌舞伎の椅子』 望月太左衛門（歌舞にまつわるカラッジ代表）  
 矢野清之  
 望月太左衛門

D舞台で演奏される、海社會矢印、陣旗旗幟、（幕見・番切・打出など）はせとおり、太太點で書き自然界の音にも頼んでいた点がです。

資料3-3



## 資料2

## 平成14年度「演劇II」(歌舞伎講座)授業計画概要(案)

栃木県立足利南高等学校

学年月	科目	授業内容(5時間目)	講師	担当時間	授業内容(6時間目)	講師	担当時間
I	4.10 基本演技	歌舞伎の基本・実際の動き方 ○春物の考え方・正座・座礼 扇子の部分格・使い方 立ち方座り方・着物の着る方	神崎ひで貴		歌舞伎の基本・実際の動き方 ○春物の考え方・正座・座礼 扇子の部分格・使い方 立ち方座り方・着物の着る方	神崎ひで貴	
		○袖・袂の基本的な扱い方 女形の基本的な足の形・動き (内輪・すべり足等) 扇子の扱い方(裏返し)	神崎ひで貴		○袖・袂の基本的な扱い方 女形の基本的な足の形・動き (内輪・すべり足等) 扇子の扱い方(裏返し)	神崎ひで貴	6時間
		1.舞踊	藤間友也真		○短い手ほどきの舞踊(1) ○長い手ほどきの舞踊(2) ○短い手ほどきの舞踊(3)	藤間友也真	
		○長い手ほどきの舞踊(5)	藤間友也真		○長い手ほどきの舞踊(4) ○長い手ほどきの舞踊(6)	藤間友也真	
	5.8 長唄	◆立役・女形の舞踊	藤間友也真		◆免内陣音 ◆長唄と三味線の稽古(竹内健司・和歌山實雄)	藤間友也真	
		◆立役・女形	藤間友也真	2時間	◆免声練習 ◆長唄と三味線の稽古(竹内健司・和歌山實雄)	藤間友也真	3時間
	6.5 舞踊	○太形舞踊 着物の稽古	藤間友也真		◆免声練習 ◆長唄と三味線の稽古(竹内健司・和歌山實雄)	藤間友也真	
	国・立劇場・歌舞伎ワークショップ 「学生文選会・復興見」 中日劇之介						
	12.19.26	○太形舞踊 着物の稽古 ○立役の基本的な歩・動き ○立役・段物の稽古	若柳吉優	2時間	◆免内陣音 ◆長唄 縦と三味線の稽古(竹内健司・和歌山實雄)	若柳吉優	
	○立役・段物の稽古	若柳吉優		○立役 着物の稽古	若柳吉優		
	○立役・段物の稽古	若柳吉優		○女形との上体の通い・連携	若柳吉優	4時間	
II	7.10.17	○立役・段物の稽古	若柳吉優		○対話物の台詞 立役・女役	若柳吉優	
	夏季集中講座 「歌舞伎の歴史と奉賀」 中川慶宗						
	8.10.(小ホール)	●「歌舞伎の歴史と奉賀」 ●「狂言・ツケと折」 ●太形・立役舞踊の復習(は読み)	吉野孝男	1時間	●黒御簾音楽 荀子・鳴き物 ●歌舞伎の小道具 ●歌舞伎の衣裳	吉野孝男	1時間
	9.11.18.25	●太形の芝居(狂言など)立廻り ●太形の芝居(狂言など)立廻り ●義太夫の芝居(狂言など) ●義太夫の芝居(狂言など)	花柳良客	4時間	◆義太夫(太助記十段目稽古) ◆義太夫(太助記十段目稽古) ◆義太夫(太助記十段目稽古) ◆義太夫(太助記十段目稽古)	花柳良客	4時間
	9.10.16.23.30	●義太夫の芝居(狂言など) ●立廻り ●立廻り ●立廻り	花柳良客		◆小道具(太助記十段目) ●立廻り ◆かつら(太助記十段目)	花柳良客	1時間
III	10.6.11.13.20.27	●舞台上演のための稽古 松本太郎記十段目稽古	花柳良客		●かつら(太助記十段目) ●立廻り	大沢金久	1時間
	11.12.18.	●舞台上演のための稽古 松本太郎記十段目稽古	花柳良客		●花柳良客(太助記十段目) ●歌舞伎衣裳の魅力と着方 ●衣裳の種類、構造、着付けの仕事	花柳良客	6時間
	1.15.	●舞台上演のための稽古	花柳良客	2時間	●舞台上演のための稽古	花柳良客	
	※1月17日(金)歌舞伎フォーラムその2 発表会(予定)						
	2.22.29	●狂言の芝居(白浪五人男・三人吉三) 花柳良客	花柳良客		●狂言の芝居(白浪五人男・三人吉三) 花柳良客	花柳良客	6時間
	2.5	●狂言の芝居(白浪五人男・三人吉三)	花柳良客		●狂言の芝居(白浪五人男・三人吉三)	花柳良客	2時間

資料 4-1

足利文化体験プログラム二室内	
-足利アーツプロジェクト2013-	
「足利アート」	
足利市立美術館	
■ 市民のためのアート活動アートワークショップ	
1月 14日 14時15時(予)	
2月 8日 14時15時(予)	
3月 5日 14時15時(予)	
① 体験会場	11:00~12:00
【開催】前橋市美術館・花園美術館・足利市美術館	
会員 14:00~	
参加料:1,000円(予)	14:15~16:00
【開催】三河毛利美術館(中野町大字中野)	
【開催】足利市美術館	
【開催】足利市美術館(平野町)・足利市美術館(牧野町)	
■ 絵画部隊体験会	
1月 14日 14時15時(予)	
2月 8日 14時15時(予)	
3月 5日 14時15時(予)	
① 絵画部隊実践会場	11:30~12:00
② 指定入場料年齢	13:15~14:20
【開催】足利市立美術館(上野)	15:30~16:10
開会式 花園美術館(足利市花園町1-1)	
主会場 足利市美術館(足利市牧野町2)	

資料4-2

足利文化体験プログラム 2003

7月10日(日)

足利市文化祭大観音

11:00 ~ 12:00

11:30 開会式

(1) 講師陣合体歌  
 (2) 旗手(矢張)・司馬頭  
 (3) 上田の発見

12:00 開演

山 岩瀬木馬鹿山城内裏御門前御茶屋「御前」(足利市山城内)

大聖(源氏) 永年 おとこ 美作(大河内)

久(久松) 本山 ひき(足利義持)

元秀(大河内)

十(太郎) 島原 重秀(大河内)

(伊勢守)

九(九郎) 佐々木 朝子(足利義持)

(山城内侍御)

利(沙汰) 中野善兵衛(足利義持侍御)

喜多(木曾) (源氏多喜) 木曾 朝子(足利義持侍御)

水野(正清) (加藤清二) 水野 正清(足利義持侍御)

田代(一) (吉村一) 田代 重秀(足利義持侍御)

田代(二) (吉村二) 田代 重秀(足利義持侍御)

田代(三) (吉村三) 大津 仲也(足利義持侍御)

田代(四) (吉村四) 田代 重秀(足利義持侍御)

小 場 先陣 著者

高木文、竹久洋之、鶴亭、荒木

鶴子、堀尾、丸山正樹、宮川、土岐信、高

木、寺、小林、山崎等、佐原、森代也

猪俣、紀子、小野寺、少子(足利義持侍御)

名、富、(足利家臣)、水川、重子

水見、舟、(足利)、寺原

小坂昌、並木小雲、(足利)、寺原、(足利)

斎、井、安藤、昌子

江守君、片岡、高橋二九

高橋監督、芦野、春日